

みか月のわれては物を思ふとも世にふた、びは出るものかは

〔金葉和歌集〕三日月のこゝろをよめる

大江公資朝臣

山のはにあかで入ぬるゆふ月夜いつありあけにならんとすらん

〔金葉和歌集〕寄三日月戀をよめる

藤原爲忠

宵のまに仄かに人をみか月のあかで入りにし影ぞ戀しき

〔風雅和歌集〕秋の歌とて

權大納言公宗

夕暮の雲にほのめく三日月のはつかなるより秋ぞ悲しき

〔看聞日記〕永享五年九月四日、抑三日月今夜出現、去月小之由、曆博士勘進、日數相違之間如此、今夜

當三日也、天能知日數顯然也、曆道不覺比與也、

〔太閤記〕山中鹿助傳

十六歳の春、甲の立物に半月をえたりけるが、今日より三十日の内に、武勇之譽を取候やうにと、三日月に立願せり、かゝる處に伯州小高之城、主山名を攻討んと、義久發向しければ、山名も打向ひ及合戦、互に火出る計苦戦し、勝負まぢくなりしに、山中甚次郎と名乗出つ、菊池音八と渡し合せ、暫し相戦ひしが、終に菊池を討て首をさし上たり、此菊池は因伯二州にをいて、隠れなき勇者なりき、是よりして三日月を、一世の間信仰せしとかや、

弦月

〔倭名類聚抄〕景宿、弦月、劉熙釋名云、弦月月之半名也、其形一旁曲、一旁直、若張弓弦也、弦、和名由美、八利有上

弦下

〔類聚名義抄〕弦、音絃、ハツル景宿類、ハリ、弦月、上弦、カムツユミハリ、下弦

〔下學集〕時節、弓張月

〔撮壤集〕天象、月、弦月上、和名類聚、弓張月